

基山町議会広報編集委員会
委員長 大山 勝代

- 1 視察者 大山勝代、牧藺綾子、重松一徳、木村照夫、久保山義明、神前輔行
- 2 視察地 長崎県壱岐市
- 3 期日・日程 2014年2月12日 市議会 広報特別委員会 13日 一支国博物館
- 4 壱岐市の概要 面積 138、56 km²
平成16年 郷の浦・勝本・芦辺・石田の4町合併
人口 28,992人（平成26年1月）
- 5 市議会議員 16人
- 6 壱岐市議会基本条例 （平成23年12月16日制定）

地方分権の進展により地方公共団体の自己決定、自己責任の範囲が急速に拡大する中で、二元代表制の一翼である議会の担う役割と責任は、これまで以上に重要なものとなってきた。

このため、議会は、市長その他の執行機関と対等な関係を構築し、市民の福祉の向上と将来のまちづくりに向けて、意思決定機関及び行政の監視機関としての役割を十分に発揮しなければならない。

壱岐市民の代表として選ばれた議員は、市民の代弁者であるとともに、市民協働のまちづくりを実現するため、市民への情報発信と意見の収集を積極的に行い、政策立案能力の向上に努め、あわせて議会での意思決定に関する説明責任を果たす必要がある。

ここに議会は、市民に開かれた議会を推進し、議会運営の基本的事項を定め、議会の役割と活動の指針を明確にすべく、この条例を制定する。

- 7 広報特別委員会の編集基本方針
 - ◇ 住民が議会を身近に感じられるように工夫する。
 - ・住民の写真・コメントで議会だよりに参加。
 - ・表紙は子どもを主役にし、まず読者を惹きつける。
 - ◇ 広く庶民が理解できるよう小学4年生が理解できる内容とする。
 - ・専門用語をなるべく使わない。
 - ・住民の生活に関する質疑事項等を記事の全面にだす。
- 8 その他意見交換
 - ・編集委員の役割分担と発行までの進め方。
 - ・印刷会社とのかかわり方。
 - ・議会事務局とのかかわり方等。

日 時：2014年2月12日（水）～2月13日（木）

内 容：広報編集委員会行政視察報告

議員名： 牧 園 綾子

＊ 研修視察場所・・・（長崎県壱岐市）

『 まず、壱岐市は平成16年3月に、郷ノ浦町・勝本町・芦辺町・石田町の壱岐4町合併により、平成26年1月1日現在の人口 28,992人の市で、古代より東アジア大陸と日本列島の動線上に位置することから深いかかわりがあり、国指定史跡や歴史的文化遺産が数多くあり、「一支国博物館」（いきこくはくぶつかん）、「長崎県埋蔵文化財センター」は、日本の古代史を知る上でも貴重な施設として、平成22年3月に開館し多くの観光客が訪れている。』

「1」研修内容（壱岐市）・・・議会だより編集全般について

- ①広報編集の基本方針
- ②編集委員の役割分担と発行までの進め方。
- ③印刷会社とのかかわり方。
- ④議会事務局とのかかわり方。

・以上、こちらからの質問内容を中心にまず壱岐市の広報委員長より説明を受けた。手順の多くはそう大差ないように感じたが、基本方針として、「住民が身近に議会を感じられる工夫として、専門用語をなるべく使わず小学4年生が理解できる内容とする。」と明記しており、その方向で紙面作りをされていることに、議会だよりの読みやすさを感じた理由がわかり、自分たちも方向性のわかる基本方針を作るべきであることを確認し合った。また、どの号も表紙の写真がすばらしく、それについては「子供を主役にし、イベントなどは避けたものをテーマにとっている」ということで、常に数百枚撮りためてストックしている準備の様子など聞くことができ参考になった。一律に、市と町で人口も違うので、同じようにはむずかしい点もあるが、広報委員会の活動としてよいと思うことは大いにスピーディーに取り入れていきたいと感じた。

・議会だよりの中でもアンケート調査でのQ&A（質問・回答）を取り上げることがあり、結論まで至っていない検討段階のときなど、そのプロセスが文章だけでは伝わりにくいと以前から感じていた。壱岐市では議会だよりにマスコットキャラクターを登場させ、その発言や顔の表情から微かなニュアンスを出していて、これは今より途中段階の内容への理解を増すアイテムになると感じた。身近に感じ自分もそういう疑問を持っていた、あるいは心配していたというように読んで感じる見せ方の工夫も必要であり、これは今後の課題。

・また、住民の方に図書券（500円）が当たるクイズなど出し、議会だよりを普通に読めばその答えがわかるという取り組みもされ、使い残した年賀状などでの応募が割と多くあり好評のようなので、こういうことも検討してみたい。そのはがきに一緒に書かれた住民の声として、年齢のみ掲載の疑問・要望・感想など、一人の方に30～40字程度で、今回こんな声が上がってますという形での見せ方も参考になった。

＊ 今回の研修で、また大いに刺激を受け、伝えたいことを一生懸命から少し見るシフトをかえ、情報はきちんと伝わりましたかというやさしい目線の気持ちでの文章や構成を意識した紙面作りをと考えている。

平成 26 年 2 月 26 日

「比べてみれば、一目瞭然」

基山町議会広報編集委員会
委員 重松一徳

基山町議会広報編集委員会 6 人で、2 月 1 2 日長崎県壱岐市議会を訪問し、議会だよりの編集・発行等について研修をおこなった。

基山町議会広報編集と壱岐市議会広報編集の大きな違いは、基本方針が有るか・無いか、が第 1 点に上げられる。基山町議会には基本方針はない。

壱岐市議会広報編集の基本方針

- (1) 住民が身近に感じられるような工夫
- (2) 住民も写真やコメントで参加
- (3) 表紙は子どもを主役に
- (4) 専門用語はなるべく使わず、小学 4 年生が理解できる内容に
- (5) 住民の生活に関する記事を全面に

この視点で壱岐市議会・基山町議会の「議会だより」を比べてみれば、どちらが読みやすいか一目瞭然。

壱岐市議会「議会だより」
住民の関心ごとを全面に



写真を多く用い、視覚で訴える



基山町議会「議会だより」
議会の審議が中心



文字が多く、読みづらい



第2点は、広報編集委員のあり方に違いがある。

基山町議会広報編集委員会は、1期目の議員中心で構成しているが、壱岐市議会広報特別委員会は各常任委員会委員長がメンバーに入っている。

それにより、常任委員会での審査・採決を論点良く報告されている。

第3点は、広報印刷費に大きな違いはないが、壱岐市議会「議会だより」はオールカラーを採用し、基山町議会「議会だより」は表裏表紙のみカラーだ。

今後、予算に照らして、オールカラーも検討しなければならない。

参考資料

	基山町議会「議会だより」	壱岐市議会「議会だより」
印刷費	61万6千円	131万円
発行部数	6,400部（年4回）	11,000部（年4回）
1ページあたりの単価	1円28銭	1円62銭

第4点は、壱岐市議会はマスコットキャラクターを採用し、漫画や挿入風刺で視覚的に分かり易く説明している。

基山町議会はグラフ等を用いているが、視覚的な用途を採用する方法としてマスコットキャラクターは参考になる。

他に、議会事務局とのかかわり方や印刷会社とのかかわり方など参考に出来る事項はあるが、問題は議会の広報として何を住民に知らせなければならないのか、その工夫をどのようにするのか、という基本方針を確立することにあると強く感じた。

まず、読んでいただける工夫を広報編集委員会で議論して、一步でも前進させていきたい。

以上、報告とする。

基山町議会

広報編集委員長 大山勝代 殿

平成 26 年 2 月 19 日

広報編集委員

木村照夫

広報編集委員会視察報告書

1. 研修目的と課題

広報特別編集委員会は定例議会終了後に、議会だよりの広報誌を 4 回発行している。町民の皆様に分かりやすい広報誌づくりに取り組んでいる。その一環として先進地視察研修を行っている。議会の情報を正確・新鮮・スピード感をもって発信し、町民の皆様によりこんで、読んでもらえる広報誌づくりを、いかにするのが大きな課題である。

2. 視察日 平成 26 年 2 月 12 日(水) ～2 月 13 日 (木)

3. 視察地 長崎県壱岐市議会事務局

4. 研修の感想と今後の議会だより編集の改善策について

①広報編集の基本方針で住民が議会を身近に感じられるように工夫する。

- ・表紙の写真は子どもを主役にし、必ず読者を惹きつける。
- ・広く庶民が理解できるよう小学 4 年生が理解できる内容にするため専門用語をなるべく使わない、住民の生活に関する質疑事項等を記事の前面にだす、をポイントとして取り上げられていた。

*感想として

- ・「議会だより」の本質を教えられた。今まで本当に基山町住民に分かりやすい広報誌であったのか、小学 4 年生が内容を読んで果たしてどのくらい理解が出来ていたのか疑問が残る。これから写真を多く取り入れ住民に分かりやすい誌面づくりを目指す。
- ・前面横書きの議会だよりである。文章と写真との対比がうまく組み合わせている。写真の重要性を感じた。写真撮影は 1 人の事務局担当者が行っており、表情豊かな撮影に感銘を受けた。プロカメラマンの域である。基山町議会事務局も専門の秘書（パート）がいれば可能であると思う。前面横書きの議会だよりの広報誌で読みやすく分かりやすい。横書きに改革することも研究課題と思う。

②編集委員の役割分担と発行までの進め方

- ・3 回の委員会開催で役割担当者を決めている。
条例、予算、一般質問、審議内容、委員会報告、編集後記を作成している。今後も議会前に役割分担表を作成し進めて行きたい。

③印刷代は基山町の 1 ページの単価は 1 円 28 銭に対して、1 円 62 銭のフルカラーである。綺麗な誌面のフルカラーで読みやすい。1 ページの単価はやや上がるが、住民の皆様が読みたい広報誌にするには、フルカラーにすべきであり検討すべき課題である。

④いき議会だよりに「マスコットキャラクターが誕生しました」

ミル（見る）ちゃん。キク（聞く）ちゃん。ユウ（言う）ちゃん

の 3 人のキャラクターを取り入れてある。町の執行部と議会の中間的な役割りを演じている。今回は未集金の一覧表を掲げてあり、マンガ的に税金納入を市民に呼びかけている。

基山町議会もマスコットキャラクターを活用することも、一案で住民に読んでもらえる誌面づくりにするためにも、研究課題として検討の余地がある。

以上

日 時：2014年2月12日（水）～2月13日（木）

内 容：広報編集委員会行政視察報告

議員名：久保山 義明

○ 視察内容と所感

壱岐市議会 議会広報特別委員会

議会だより 発行と基本方針の大切さを学ぶ

今回、視察先の壱岐市議会「議会だより」について最も強く感じたのが、「議会のための報告書」ではなく「市民のための説明書」という**住民が議会を身近に感じられる**議会だよりを基本理念として確立させていることであった。

次に、議会広報の仕様は右開き・横書きという今までの概念を打ち破っている。これは新たなチャレンジとして好意的に受け止められるが、町民の方にも違和感なく受け入れられているということであると同時に「読みやすい」という評価であった。また、一般質問の欄では、他議会や長崎新聞への視察後、すぐに仕様を変更させ、臨機応変に対応している姿勢は見習うべきであると感じた。

最終ページには、「議会だよりクイズ」と題し住民の方の笑顔の写真を取り入れ、また議会だよりをよく読めばわかる、市の大切な出来事や決まり事がクイズ形式として取り入れられている。当選者には図書カード1,000円分を5名の市民に配布している。これは、公金支出の観点から賛否が分かれるだろうが、市民の声を拾い上げる手段として有効に活用されていると感じた。

最後に、なんのための、だれのための「議会だより」か。基山町議会としてももう一度この基本理念を再構築する必要性を強く感じた。

● 質 疑

Q: 部数の違いはあるにせよ、単価契約がフルカラーにもかかわらずほぼ同額であるが？

A: 市民からも「フルカラーで、紙質が良すぎる」と批判もあったが、印刷会社としてはほとんど表紙、裏表紙がフルカラー他ページが2色刷の見積もりと同額である回答を受け、市民にも議会だよりを使って説明している。

Q: 事務局（5人体制）の関わりは？

A: もちろん、印刷業者とのやりとりを中心にある程度関わって頂いている。担当職員は嘱託であるが旧町時代から12年間議会広報に携わり、表紙写真をはじめ重要な役割をいただいている。

Q: 議会だよりにマスコットキャラクターを使用したことにより、議員では言いにくい、伝えにくいことを代弁してくれている。この作成費用は？

A: 印刷会社と協議をおこない、無償で作成していただいた。キャラクターの使用は印刷会社が変更になっても使えるように著作権の権利を帰属していただいている。

Q: 入札業者とのやりとりに使うソフトは？

A: Wordを使用する。2名以外の議員は手書きなのでデータ化は事務局で行う。イラストレーターは費用の面で断念。市広報は、イラストレーターを使用している。

Q: 印刷業者と議会広報特別委員会との接点は？

A: 議会広報特別委員会として印刷業者へ出向き、お互いの顔が解ることで信頼関係を構築している。

Q: クイズ当選者への図書カード進呈の予算は？

A: 報償費として計上している。

Q: 議会報告会において議会だよりの役割は？

A: 議会報告会の案内、資料としての活用を意識、終了後の報告、質問への回答といったように 4 回連続での掲載となる。つまり、ほとんど議会報告会の話題が紙面に含まれる。

(彦根市議会 議会広報特別委員会)



(基山町議会 議会広報編集委員会)



2月12日 壱岐市広報視察

まずはじめに壱岐市議会だよりは紙面から目を引くものがあった。土地勘の無い私でも気楽に手に取って読んでみたいと思わせる紙面だった。

内容も分かりやすく、議会用語を使わず住民が理解しやすい表現であった。壱岐市議会だよりのコンセプトが幅広い年齢層が理解しやすい、という所にあり文章レベルも小学4年生が読んで理解できる程度にするなど工夫してあった。

多くの住民が理解しやすい紙面作りがコンセプトに明確に誰に読んでももらいたい、どれくらい分かりやすくするかなど明確であった。

基山町の広報も住民に分かりやすく明確なものにするため、紙面作成における基山広報の策定を考えるべきではないかと感じた。

またその他に基山町にないユニークなものとして、議会だよりにキャラクターを作成しているところである。活字が多い議会だよりをそのキャラクターがやわらげる場面もあり、基山町の議会だよりにもキャラクターがあれば印象が

ずいぶんと変わる気がした。

最後にフェイスブックの活用も検討していることが分かった。

より多くの方に情報発信するためである。

基山町でもフェイスブック利用者が年々増加していることを考えれば今後検討する必要があると感じた。